

Biz Box ルータ 「RTX830」
ファームウェアバージョンアップ手順書

1 外部メモリーを使用してファームウェアを更新する

市販の外部メモリー（USB メモリー/microSD カード）に保存したファームウェアを本ルーターに読み込ませてファームウェアの更新を行います。

■注意

本ルーターの USB ランプまたは microSD ランプが点灯/点滅している間は、外部メモリーを取り外さないでください。外部メモリー内のデータを破損することがあります。USB ボタンまたは microSD ボタンを 2 秒以上押し続けるとブザーが鳴り、USB ランプまたは microSD ランプが消灯し、外部メモリーを取り外すことができるようになります。

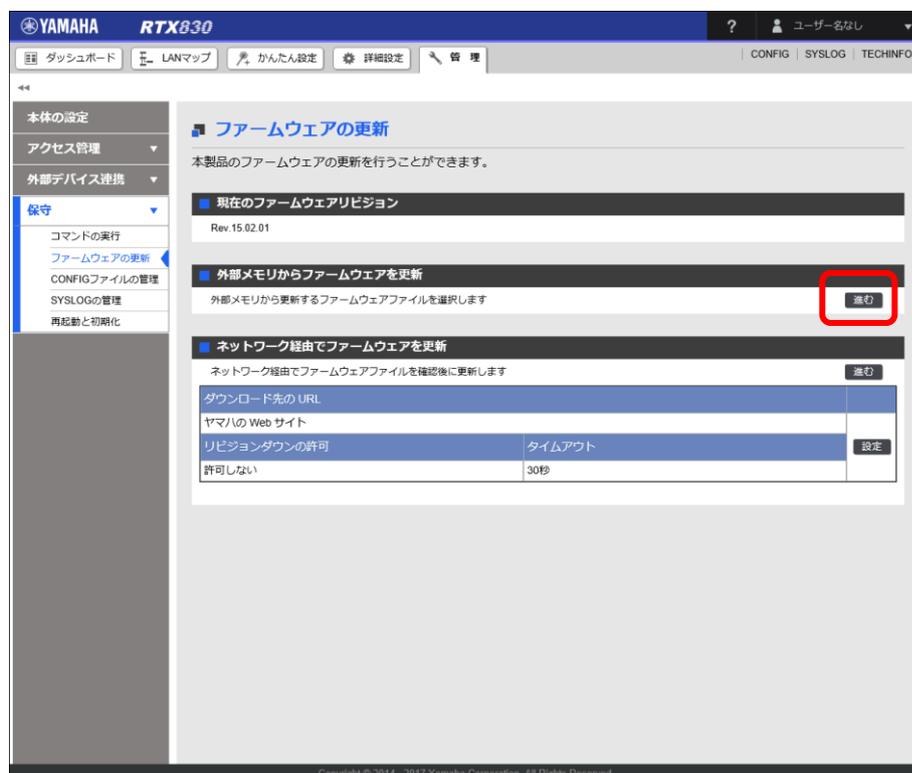
■重要

・USB 延長ケーブルを介して接続した場合は、正常に動作しないことがあります。USB メモリーは本ルーターの USB ポートに直接挿入してご使用ください。

・FAT または FAT32 形式でフォーマットされていない外部メモリーは、本ルーターで使用できません。

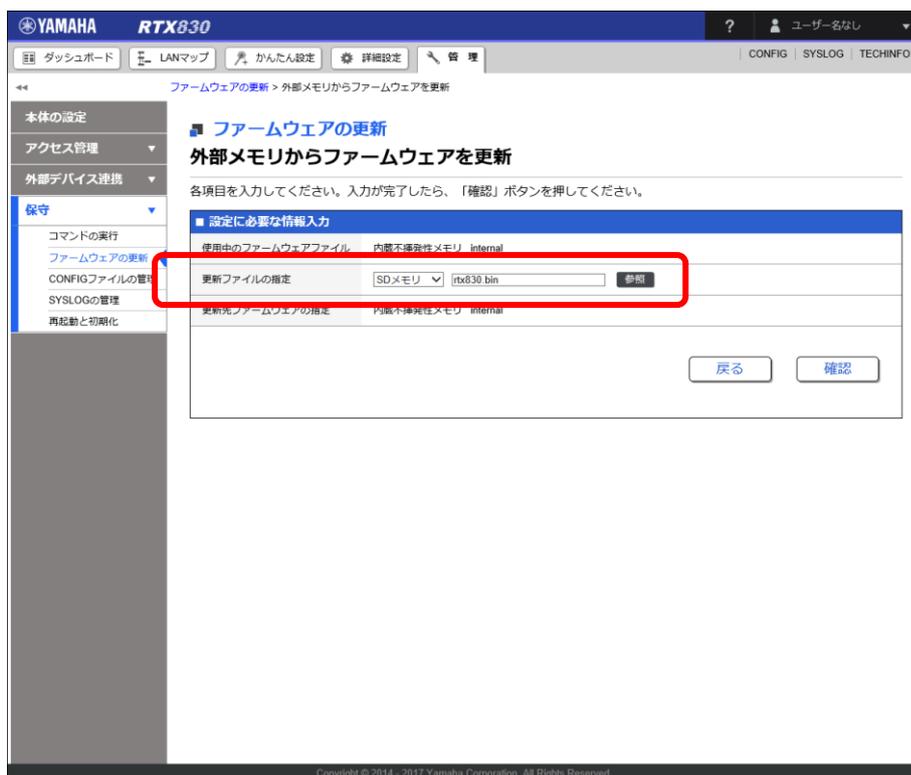
・USB ハブを介して、複数の USB メモリーなどの外部メモリーを本ルーターに接続することはできません。

1. ファームウェアを保存した外部メモリーを用意する。
2. 外部メモリーを本ルーターの USB ポートまたは microSD スロットに差し込む。
外部メモリーを認識するとブザーが鳴り、本ルーターの USB ランプまたは microSD ランプが点灯します。
3. 「管理」タブ - 「保守」 - 「ファームウェアの更新」を順に選択する。
「ファームウェアの更新」画面が表示されます。
4. 「外部メモリからファームウェアを更新」項目の「進む」ボタンをクリックする。



「外部メモリからファームウェアを更新」画面が表示されます。

5. 外部メモリーから読み込みたいファームウェアを指定する。



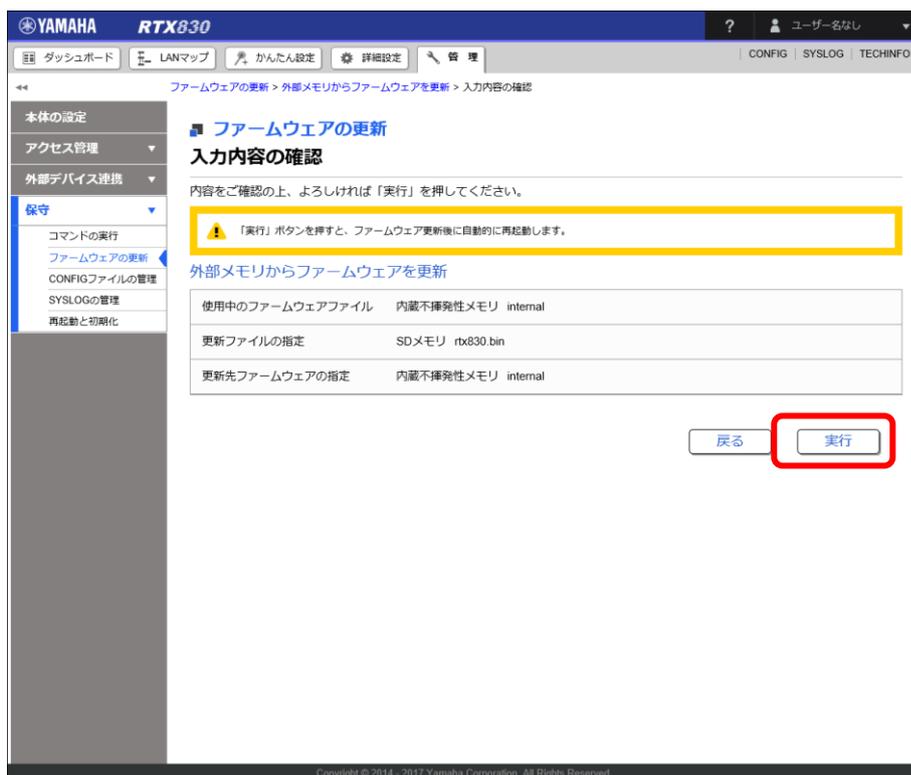
① 更新ファイルの指定：

差し込んだ外部メモリーを選択し、「参照」ボタンをクリックします。「ファイルの一覧」画面で保存したファームウェアを選択します。

6. 「確認」ボタンをクリックする。

「入力内容の確認」画面が表示されます。

7. 内容を確認し、「実行」ボタンをクリックする。



「ファームウェアの更新」ダイアログが表示され、ファームウェアの更新が開始されます。ファームウェアの更新が完了すると、本ルーターは自動的に再起動します。

メモ

使用中のファームウェアと更新先ファームウェアの指定が異なる場合は、再起動は行われず、使用中のファームウェアも変化しません。手順 8 以降は、使用中のファームウェアと更新先ファームウェアの指定が同じ場合に行ってください。

8. 本ルーターの再起動中（LED が全点灯している間）に、外部メモリーを取り外す。

メモ

本ルーターの LED が全点灯している間に外部メモリーを取り外してください。その際に USB ボタン/microSD ボタンを押す必要はありません。

外部メモリーを取り外さなかった場合、外部メモリー内にファームウェアまたは CONFIG ファイルが存在すると、その外部メモリー内のファイルを使用して起動します。

9. 本ルーターの再起動が完了後、「トップへ戻る」ボタンをクリックする。



ダッシュボードページが表示されます。

メモ

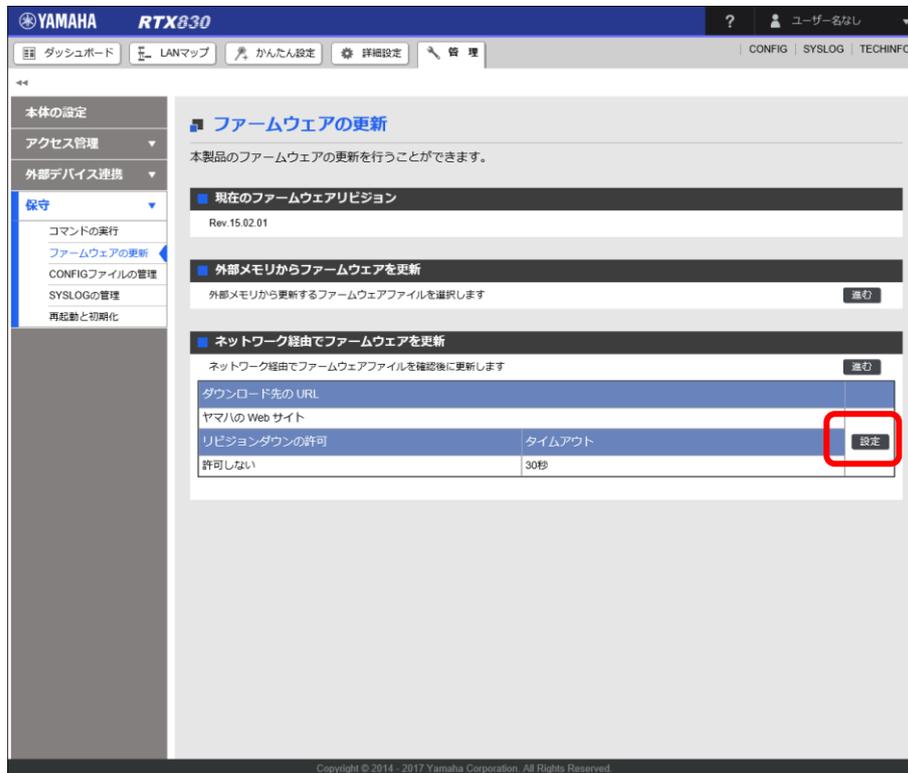
再起動中は Web GUI を開いているパソコンが本ルーターと通信できない状態（パソコンのネットワークアダプタの状態表示で「ネットワークケーブルが接続されていない」と表示されます）になりますが、再起動が完了すると通信状態が復旧します。本ルーターの LED の点滅終了後に、Web GUI を開いているパソコンの通信状態が復旧していることを確認してから「トップへ戻る」をクリックしてください。

2 社内サーバー等からネットワーク経由でファームウェアを更新する

社内サーバー上に置かれたファームウェアファイルをダウンロードしてファームウェアの更新を行います。

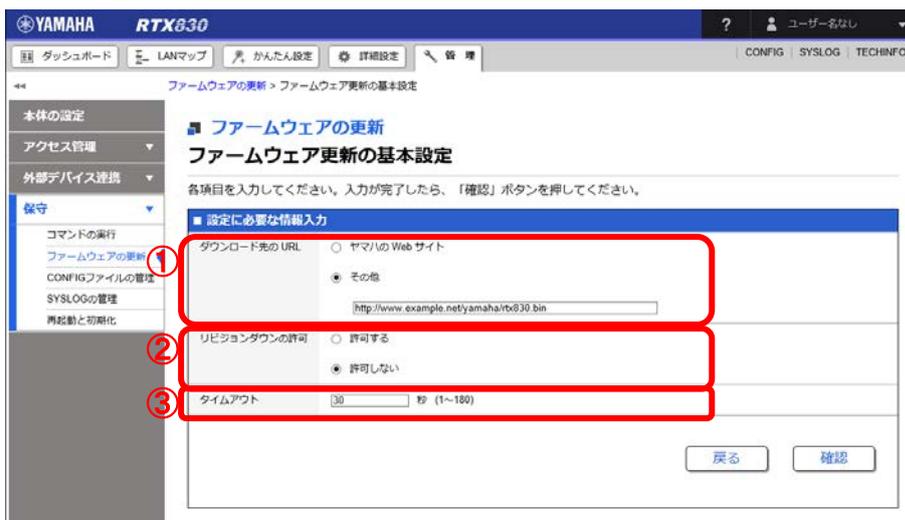
※別途社内サーバーを準備する必要があります。

1. 「管理」タブ - 「保守」 - 「ファームウェアの更新」を順に選択する。「ファームウェアの更新」画面が表示されます。
2. 「ネットワーク経由でファームウェアを更新」項目の「設定」ボタンをクリックする。



「ファームウェア更新の基本設定」画面が表示されます。

3. ファームウェア更新の基本設定を行う。



- ① ダウンロード先の URL :

ファームウェアの置かれている URL を設定します。社内サーバーからダウンロードする場合は、「その他」を選択し社内サーバーの URL を入力します。

- ② リビジョンダウンの許可 :

古いバージョンのファームウェアへの書き換えを許可するか否かを設定します。

③ タイムアウト :

ネットワーク経由でファームウェアを更新する処理のタイムアウト時間を入力します。

4. 「確認」ボタンをクリックする。

「入力内容の確認」画面が表示されます。

5. 内容を確認し、「設定の確定」ボタンをクリックする。



設定が反映され、「ファームウェアの更新」画面が表示されます。

6. 「ネットワーク経由でファームウェアを更新」項目の「進む」ボタンをクリックする。



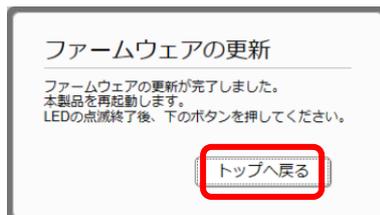
更新可能なファームウェアの確認が行われ、「ネットワーク経由でファームウェアを更新」画面が表示されます。

7. 内容を確認し、「実行」ボタンをクリックする。



「ファームウェアの更新」ダイアログが表示され、ファームウェアの更新が開始されます。ファームウェアの更新が完了すると、本ルーターは自動的に再起動します。

8. 本ルーターの再起動が完了後、「トップへ戻る」ボタンをクリックする。



ダッシュボードページが表示されます。

メモ

再起動中は Web GUI を開いているパソコンが本ルーターと通信できない状態（パソコンのネットワークアダプタの状態表示で「ネットワークケーブルが接続されていない」と表示されます）になりますが、再起動が完了すると通信状態が復旧します。本ルーターの LED の点滅終了後に、Web GUI を開いているパソコンの通信状態が復旧していることを確認してから「トップへ戻る」をクリックしてください。

3 DOWNLOAD ボタンを用いたリビジョンアップ

本製品がネットワークに接続されている場合、DOWNLOAD ボタンを押すことで、Web サーバーにあるファームウェアへ自動的にリビジョンアップすることができます。(http リビジョンアップ)

※DOWNLOAD ボタンを用いたリビジョンアップを行う際は、ソフトウェアライセンス契約に同意する必要があります。ソフトウェアライセンス契約画面が表示されたら、ソフトウェアライセンス契約の内容をよく確認し、「ソフトウェアライセンス契約に同意する」のチェックボックスにチェックを入れます。

この機能を有効にするには、operation http revision-up permit コマンドを使用します。ファームウェアをダウンロードする Web サーバーを指定するには、http revision-up url コマンドを使用します。工場出荷時は、ヤマハの Web サーバーからファームウェアをダウンロードするように設定されています。

DOWNLOAD ボタンを 3 秒以上押すと、新しいリビジョンのファームウェアの有無をチェックします。新しいリビジョンのファームウェアがあった場合は、自動的にファームウェアをダウンロードし、リビジョンアップを実行します。リビジョンアップが成功すると、本製品は再起動します。

■注意

本製品が再起動するまでの間は、絶対に本製品の電源を切らないでください。

メモ

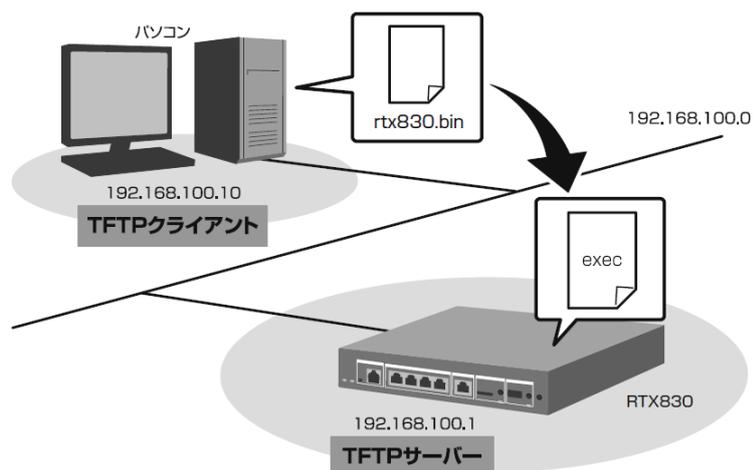
http revision-down permit コマンドで、古いリビジョンのファームウェアへの書き換えを許可することもできます。

4 TFTP を用いたリビジョンアップ

TFTP を用いてリビジョンアップする場合は、本製品は TFTP サーバーとして動作し、パソコンは TFTP クライアントとして動作します。Windows の場合はコマンドプロンプトから、Mac OS X の場合は「ターミナル」アプリケーションから、tftp コマンドが実行できます。

TFTP の実行形式はそれぞれの OS に依存します。以下の点に注意して実行してください。

- ・転送モードはバイナリにします。(binary や bin と表現される)
- ・本製品側のファイル名は「exec」です。
- ・送信元のファイル名は「rtx830.bin」です。



メモ

- ・Windows Vista 以降の Windows では、初期状態で TFTP が使用できないようになっています。TFTP を使用するには、Windows の [コントロールパネル] から [Windows の機能の有効化または無効化] 画面を表示し、TFTP クライアントを有効化します。
- ・ファームウェアをリビジョンアップしても、本製品の設定内容は変更されません。

TFTP を使用してリビジョンアップする

ここでは、Windows パソコンから TFTP を使用して本製品のファームウェアをリビジョンアップする方法を説明します。Windows パソコン以外を使用する場合は、Windows パソコン側の操作を適宜お使いの環境に置き換えてください。

1. 本製品 (TFTP サーバー) に、ファームウェアを転送するパソコン (TFTP クライアント) の IP アドレスを設定します。

- 本製品のコンソールで、以下のように入力します。
- ここでは、パソコンの IP アドレスを「192.168.100.10」として設定します。

```
# tftp host 192.168.100.10
```

2. プログラムの変更中の不安定な状態を避けるために、PP 側の通信を中止します。

- 本製品のコンソールで、以下のように入力します。

```
# pp disable all
```

■重要

この例では、save コマンドを実行していないため、本製品を再起動した後も、PP 側の通信を切断した状態 (pp

disable all コマンドを実行した状態)にはなりません。

3. Windows のコマンドプロンプトを起動して、以下のように入力します。

```
C:¥>tftp -i 192.168.100.1 PUT rtx830.bin exec
Transfer successful: xxxx bytes in x second, xxxx bytes/s
C:¥
```

本製品に転送したファームウェアを不揮発性メモリに書き込んでいる間、microSD、USB、DOWNLOAD のランプが交互に点灯します。不揮発性メモリへのファームウェアの書き込みが完了すると、自動的に本製品が再起動します。外部メモリ内のファームウェアで動作している場合には、外部メモリ内のファームウェアが更新されます。

メモ

不揮発性メモリに書き込む時間が長いため、TFTP クライアントがタイムアウトする場合がありますが、正常にリビジョンアップできます。本製品では、tftp コマンドの引数として、exec の代わりに exec0 または exec1 を指定できます。また tftp コマンドのオプションとして、no-reboot（本製品を再起動しない）、reboot（本製品を再起動する）が指定できます。

■注意

本製品が再起動するまでの間は、絶対に本製品の電源を切らないでください。

メモ

本製品では、tftp コマンドのオプションとして、no-reboot（本製品を再起動しない）、reboot（本製品を再起動する）が指定できます。

4. 本製品のコンソールで、show environment コマンドを使用して、ファームウェアが正しくリビジョンアップされたことを確認します。

以上